

夢 希望 勇気 創造 そして愛

議会運営委員長で辣腕発揮

坂戸市議会議員 飯田恵さん

コーラルピンクのジャケットがよく似合う気品ある笑顔。

多くのつわもの揃いの市議会の舞台回しという要職の「議会運営委員長」を

こなす飯田恵さん。長距離恋愛で結ばれた飯田雅文先生は腕ききの整形外科医。

恵さんは鶴ヶ島一本松で行列のできる開業医夫人だった。

地元坂戸鶴舞の選出議員が急逝。ボランティア活動に汗を流していた矢先であったが「出馬」を決意。叔父が中曽根総理の秘書という環境もあり「政治」に抵抗感はなかったという。

しかし、「知名度」もなく、選挙運動は大変だったと当時を振り返る。

一期目1338票、二期目は2360票と大きく票を伸ばした。（議員は期を重ねて得票数を伸ばすことは並大抵ではない）。

出馬を考えた時、夫の雅文先生は「自分で決めること。決めた以上は本気でやる。それならば僕は応援する」と一言。さすが九州男児。

こういう夫のサポートあつての議員活動であり、票を上乗せできるような地道な活動が花を咲かせ、実を結んでいる。

看護師という前職から「人にはおもいやり。基本は人づくりこそまちづくり。自己中心ではなく他人にとって何がいいことを常に頭に浮かべる」という政治理念だ。

「女性の社会進出は確実によくなってきているが、世界からみるとまだまだ。女性自らの意識改革が求められている。職業に対する意識も同じ。パートだから、正社員ではないからということでは理由にならない。職業人としての高いプロ意識をもつこと。女性の価値観、意識の底上げを今後サポートしていきたい」とキラキラ輝く大きな瞳で語った。

薬剤師を目指す長男、整形外科医を目指す次男、医療とは違う道を選んだ三男、成人式を迎えた大学生の長女と四人の子供のママでもある恵さん。

「家庭は私のすべて。家事全般、特に食事作りは完ぺきを目指しています」

大和魂そのもののご主人、家族を大切にしながら、女性が輝く環境をもとめ

議会改革、政治改革に挑むジャンヌダルクの生き方はしなやかだ。